

議員派遣結果報告書

令和6年第2回定例会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

令和6年9月6日

愛南町議会議長 佐々木 史仁 殿

愛南町議会副議長 鷹野 正志

記

1 研修の経過（議員派遣の概要）

本議会は、地方行政及び議会の制度運営等に関し学ぶことを目的として、令和6年8月5日に松山市一番町3丁目2-1「ANAクラウンプラザホテル松山」で開催された令和6年度第1回町議会議員研修会（愛媛県町村議会議長会主催）に参加した。

2 研修の詳細

①派遣議員

尾崎 恵一、嘉喜山 茂、池田 栄次、吉田 茂生、少林 法子
石川 秀夫、金繁 典子、鷹野 正志、原田 達也、佐々木 史仁
中野 光博、山下 正敏、吉村 直城 以上13名

②内容

講演「報酬・政務活動費を考える論点と手続き」

—「住民自治の根幹」としての議会を作動させるために—

講師 大正大学社会共生学部公共政策学科教授 江藤俊昭 氏

全国の町村議会議員選挙において無投票や定数割れとなる事例が増加傾向にあり、議員のなり手不足が顕著となる中、今後の議員報酬や議員定数、地方議会の在り方等について学ぶため、「町村議会議員のなり手不足対策検討会」の委員長を務める大正大学の江藤俊昭教授を講師に招いた研修に参加した。

講師からは、議員報酬に関して、報酬は役務（活動）の対価であり、住民の理解を得るためにも活動時



間・日数を基にした原価方式を用い、根拠を示すべきとの見解が示された。また、議員定数については、県内各町において議員定数が年々減少している状況に触れ、議会として多様な議論ができる人数の確保が必要であるとの見解が示された。報酬・定数ともに類似団体との比較は根拠がないためすべきではなく、また議員報酬を議論する報酬審議会において議会活動に精通した方を委員に選考するなど、議会の考えを伝える努力が必要であるとのことであった。

議員のなり手不足は、住民の多様な意見を町政に反映させるための議会の機能の弱体化につながり、ひいては地方自治の弱体化にもつながり得るため、本町においても住民福祉につながる議会力の向上が必要と捉え、議員定数や議員報酬等について議論を深めていくことが重要であると考えます。

以上のとおり報告します。